

「今後のプラスチック資源循環施策のあり方について（案）」 に対する意見

今般政府にてとりまとめられた標記案（以下、「政府（案）」）について、以下のとおり意見を申し述べる。

1. 当所意見の概要

政府（案）に対する当所の意見概要は以下のとおりである。

（1）プラスチック資源循環の全体的なあり方について

- ・プラスチック資源循環の高度化に向け、環境整備の具体化を通じた循環経済への移行を推進し、「環境、経済、社会の三方よし」を目指すことを支持する。
- ・企業が積極的に本分野に投資ができるよう、再生素材・バイオプラスチックの利用促進や、ESG金融による後押し等、企業の成長につなげるための環境整備を進めていくべきである。特に、中小企業の新技術や新製品の開発、更にはビジネスチャンスに拡大させていくことが重要である。
- ・プラスチック資源循環の仕組みを新たに構築することによって、社会全体でのコストや環境負荷、各主体の役割、リサイクル後の再生素材の市場動向がどうなるのか等、制度全体の入口から出口までの全体像について客観的なデータを基にシミュレーションを行い、社会実装が可能なかどうか、確認・検証するべきである。

（2）プラスチック容器・製品の一括回収について

- ・中間処理業者・リサイクル業者の設備が一括回収に適切に対応できるほど十分に整っていないことも想定し、技術開発やインフラ整備に対する支援が非常に重要である。
- ・具体的な施策の検討に当たっては、既に構築されている容器包装リサイクル体制に悪影響を及ぼさないよう、現場のリサイクラーの処理能力の確保・拡充、リサイクル高度化のための技術開発に要する費用や時間等、十分留意するべきである。

（3）プラスチック資源の排出削減について

- ・中小事業者もリデュースの意義を理解して取組を進める必要があるが、特に現在の経済環境を考えると、まずは経営の維持を優先せざるを得ない事業者が数多くある。そうした現下の経済・ビジネス環境も考慮し、事業者への過度な負担とならないよう、できる限り自主性を尊重し、強制力を伴う施策を講じないようにするべきである。
- ・代替素材の普及が進むことを想定し、消費者の行動変容を正しく促すためにも、消費者が区別しやすい商品設計・表示となるような仕組み作りが重要である。

2. 個別事項に対する具体的意見

『今後のプラスチック資源循環施策のあり方について（案）』の内容に基づき、該当部分も明記し、以下意見を申し述べる。

I. 考え方

該当頁・行数	意見	理由
1 頁 21～25 行目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ プラスチックという「素材」の資源循環を進めるにあたって、多様な主体が自ら参画し、相互に連携しながら効率的な循環を可能とする環境整備を進めることが必要であるという点に賛同する。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ プラスチックの資源循環を総合的に推進するためには、事業者の取組に加えて、製品を利用する消費者のライフスタイル・意識変革も重要である。
1 頁 26～31 行目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ プラスチック資源循環施策を議論するにあたっては、現下の経済状況も十分に踏まえながら検討を進めるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、特に中小事業者は大きな打撃を受け、ビジネス環境・経済状況は悪化しており、中小企業が大半を占めるリサイクル業界も厳しい状況にある。
1 頁 32 行目～ 2 頁 9 行目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「環境・経済・社会の三方よし」を目指す方針に賛同する。 ▶ 経済面においては、プラスチック資源循環を加速させ得る、特に中小企業のイノベーションやビジネスチャンスの創出等を後押しする政策的支援についても検討すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境・経済・社会の諸課題は密接に関係していることから、3つの面からアプローチすべき。 ▶ 成長分野として、中小企業が前向きに投資できるような環境を整備することが肝要。

Ⅱ. 主な施策

1. リデュースの徹底

該当頁・行数	意見	理由
2 頁 22～25 行目	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 一律規制的なアプローチではなく、事業者の自主的な取組を後押しするような事業環境を整備していくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 現在の経済環境を考えると、まずは経営の維持を優先せざるを得ない事業者が数多くある。そうした現下の経済、ビジネス環境も考慮し、事業者への過度な負担とならないようにできる限り自主性を尊重し、強制力を伴う制度にならないようにすべき。

2. 効果的・効率的で持続可能なリサイクル

該当頁・行数	意見	理由
4 頁 2～4 行目	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 持続的な回収・リサイクルシステム構築を進めることを通じて、リサイクルの質と量を向上させることが重要である、という点に賛同する。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 特に容器包装と製品を一括回収することにより、容器包装のリサイクル率や再商品化製品の品質に悪影響が生じないようにする必要がある。
4 頁 16～18 行目	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 従来のプラスチック容器包装リサイクルシステムに、新たにプラスチック製品が加わることについて、既に確立された体制を活用することの合理性は理解する。現場のリサイクラーの処理能力の確保・拡充、リサイクル高度化のための技術開発に要する費用や時間等、十分留意すべき。 ➤ 随時前広に関係者に情報共有しながら検討を進めることが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 既に構築されている容器包装リサイクル体制に悪影響を及ぼさないよう、技術開発やインフラ整備に対する支援等、十分な対策をとる必要があるから。実態を把握するため、現場のリサイクル関係者に対してもヒアリングすべき。 ➤ 現場の混乱を未然に防ぐことが肝要。

<p>5 頁 20～22 行目</p>	<p>➤ 排出事業者に対し、プラスチック資源の排出抑制や分別・リサイクルの徹底、体制整備、情報発信等を求める点については、事業者の自主性を重んじるべき。</p>	<p>➤ 左記対応に伴うコストや手間等が、事業者が事業活動を進める上で過度な負担にならないように配慮すべき。</p>
<p>5 頁 32 行目～ 6 頁 7 行目</p>	<p>➤ 「排出のしやすさ」視点に偏ることなく、回収、選別、再生、再利用の全工程にわたって、メリットの最大化を図る具体的な施策とすべき。</p> <p>➤ プラスチック資源の一括回収・リサイクル推進にあたっては、国として地域横断的な視点を持って進めてもらいたい。</p>	<p>➤ 容器包装とプラスチック製品を一括回収することで、容器包装のリサイクル率や再商品化製品の品質に悪影響が生じることのないようにする必要がある。</p> <p>➤ 質の高いリサイクルに向けては、プラスチック製容器包装・製品の製造・販売事業者が、市町村だけでなく再生処理事業者や再生材利用事業者と十分に連携することが必要である。また、現在の廃棄物処理は地域毎に運用が異なる部分が少なくない。</p>

3. 再生素材やバイオプラスチックなど代替素材の利用促進

<p>該当頁・ 行数</p>	<p>意見</p>	<p>理由</p>
<p>6 頁 25～28 行目</p>	<p>➤ プラスチック資源循環施策の実効性を考えるうえで、消費者への再生素材・バイオプラスチックの利用促進は非常に重要。</p>	<p>➤ 当該製品に対する十分な需要が見込まれなければ、事業者による供給量増大は見込まれない。</p>

4. 分野横断的な促進策

該当頁・行数	意見	理由
7頁 1～3 行目	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 制度設計を進めるにあたっては代替素材の普及が進むことを想定し、消費者の行動変容を正しく促すためにも、消費者が区別しやすい商品設計・表示となるような仕組み作りが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 代替素材の普及が進むと、消費者はプラスチックと区別できず、リサイクル現場でプラスチックと代替素材が混在し、結果として、リサイクルの質が落ちることが予想される。
7頁 4～8 行目	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 消費者のライフスタイル変革を促すために、再生素材やバイオプラスチックを一定以上利用する事業者に対するインセンティブのみならず、そうした環境配慮型製品を購入する消費者に対するインセンティブも必要不可欠。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ インセンティブを付与することで、消費者の行動促進が図れる。新型コロナウイルス感染症による影響で需要の低迷が今後も続くことが予想される点も考慮。
7頁 16～18 行目	<ul style="list-style-type: none"> ➤ プラスチック資源循環に率先して取り組む企業がESG金融に取り組む投資家等に適切に評価され、企業価値向上と国際競争力につながる共通基盤を整備する点を支持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 特に事業者の取組を後押しする観点から、ESG金融の役割は重要。今後、プラスチック資源循環分野のESGガイドランスの策定にあたっては、企業の経営実態に即した、バランスの取れた形で検討していただきたい。

Ⅲ. おわりに

該当頁・ 行数	意見	理由
7頁 26～27 行目	➤ プラスチック資源循環の仕組みを新たに構築することによって、社会全体でのコスト、環境負荷、各主体の役割、リサイクル後の再生素材の市場動向がどうなっていくのか、制度全体の入り口から出口までの全体像について客観的なデータを基にシミュレーションを行って、社会実装が可能なかどうか、確認・検証していただきたい。	➤ 既に構築されている容器包装リサイクル体制に悪影響を及ぼさないように確認・検証すべき。

以 上